

トロントにおける臨海部公園計画手法

1. 要約

背景

トロントのハーバーフロントは、市中央のウォーターフロント部分にある100エーカーの土地と水域からなる。北は湖岸通り、西はスタジアム通り、東はヨーク通りに囲まれ南にはクインズ岸壁から突き出した棧橋も含まれる。1991年に市の公式計画で40エーカー分が公園と水辺のプロムナードに位置づけられた。

例えば、音楽公園やスパンディナ岸壁公園のように一部は予定通り整備されたが、残りは整備されないまま、駐車場等暫定的な利用がなされている状況にある。最近これらの地区をハーバーフロントパークとオープンスペースとして整備するのに必要な資金の手当てがついた。

市民や関係者との協議は整備を進める上で必須の条件である。このレポートで、市民と話し合いハーバーパークに関する考え方を共有するために企画された市民との総合的な協議の結果を報告する。市民との協議がどのように進められ、そこで形成されたハーバーパークの考え方の要点や設計の基本方針または細部についての示唆について報告する。

協議の経過

ハーバーパークとオープンスペースに関する考え方を組み立てるための協議の過程には、以下の主要な3点が含まれる。利害関係者の調査、地域住民、利害関係者及びハーバーフロント公園顧問団との協議、利害関係者調査は、2002年の4月に行われた。21の組織の代表者と会見し、主要な論点に関する見通しと成功の可能性及びどのように協議会を開いたら良いかに関する彼らの助言を聴取した。これらの聞き取り調査は、幅広い分野にまたがっている。ウォーターフロントに関連のある地域団体、事業者、各種団体、サービス業及び文化団体である。利害関係者調査が終わった後、検討チームと市の担当者は新しい公園に対する考え方その他の意見を理解するために、幅広く地域団体と協議した。その数は16である。

この過程は2002年4月から5月にかけて行われた。講演、地区集会、特別な娯楽や商売上の集まり等もこの中に含まれている。そのほか検討チームは2回の公開集会を行った。一回目は、プロジェクトの一般説明から初めて引き続き一般大衆、関係者、市の担当者及び議会議員を含めて予定地の視察をした。2回目の公開集会は、ハーバーフロント公園顧問団の構想、5つの重要事項、及び提案されている設計方針に的を絞って行われた。

ハーバーフロント公園顧問団(HPAG)は、市民協議戦略の重要な3番目の要素である。ハーバーフロント公園とオープンスペースに関する考え方を共有し市民の合意を形成できるように構成されている。団は次のような関連分野の代表を含んでいる。

- 近隣住民団体
- レクリエーション面の利用者
- 芸術、文化団体
- 自然保護団体
- 観光と地域事業者

HPAGは、2002年5月から9月にかけて5回会合を持っている。それらの会合で団員は、公園設計、文化と遺産、自然環境それぞれの専門家からの発表を聞いている。彼らは国内、国外の設計事例と傾向について、情報と指導内容を共有している。この情報は、HPAGが公園体系に関する理想像の共有を形成する上で役に立っている。

HPAGは、トロント港の歴史的な経緯によっても方向付けられている。市の担当者は、造船、小規模企業団地及び1970年代の始まりに遡る最近のハーバーフロント地区社会の形成過程等、この地域の歴史的な事実に関する情報を提供している。市の担当者は、また最近の欠かすことの出来ない重要な事実についても情報提供している。HPAGは、最近の動向、中央ウォーターフロント第2部計画、及び市のウォーターフロント文化と遺産に関わる基盤計画に関する報告書との関係、連携及びそれらからえられる成功の可能性について見直している。

そしてまた、HPAGのメンバーはハーバーフロ

ント公園とオープンスペース体系の構想について公表をした。彼らはまた、事業実施及びウォーターフロント沿いの個別の部分についての“大きな絵”の考え方の指針とすべく設計の基本方針を策定した。

新しいハーバーフロント公園の構想

HPAGによって策定されたハーバーフロント公園及びオープンスペース体系の構想は、このレポートで詳しく述べられている5つの要となるテーマから出来上がっている。

公園は次のようなものでなくてはならない。

- 設計が優れていること
- 文化的な狙いがはっきりしていること
- 自然環境を保全し改善すること
- 近隣住民の生活の質を高めるものであること
- そして人々と水を結びつけるものであること。

設計の基本方針

HPAGによって新しいハーバーフロント公園の設計と施工の指針とすべく、6項目の設計基本方針が定められた。新しいハーバーフロント公園は、次のようなものでなくてはならない。

- 住民と外来者が共有できる空間であること。
- すべての人が利用可能な場所であること。
- (すなわち、いろんな利用者が入り利用できる場所)
- 港の北部沿岸及び残りの市街地と物理的につながっていること
- 既存の用途を取り込み発展させるものであること。特に、観光、ハーバーフロントセンター及び遊覧船事業がその対象である。
- 市街地との接続
- 住民、利用者の団体と緊密な関係を確立する。
- そして
- 地域の文化と遺産を重視する。

地区のテーマと細部

いくつかの地域全体にまたがるテーマが公園の体系全体の個性の形で提案された。その中には、文化公園、継続可能な設計、水辺の伝統の

道が含まれる。市民からの発案も含め、HPAGは個々の公園についてアイデア図を作った。

バサースト埠頭地区は、近隣住民向けの利用に特定した計画設計とすることで地域市民の利用を中心とするものとする。

主な新規の催事は、西部活動地区に配置する。新しいレストラン、大規模な工芸と海洋センター、及び帆船と遊覧船の係留施設は、この部分に配置する。ガリソンコモンとヨークフォートに近いので、この地区は強く伝統に焦点を当てる。

中央部については、環境保全を中心とする。活用の中には改善された魚類の生息環境、水辺の自然環境の理解、及びクイーンズ埠頭北部の活動地区を含める。

ハーバーフロント中心地区は、文化と航海をテーマとした企画を主とする。観光向けの催しの一つとして、この地区はハーバーフロントセンターの活動プログラムによって支えられる。水辺への通路として、十分な広さのボードウォーク設置し、棧橋への通路を改善するものとする。

次の進め方

市の7ヶ月に亘る市民との協議によって、ハーバーフロント公園及びオープンスペース体系に関する共通の考え方を形成した。同じく住民、関係者、地元事業者、トロントの設計業界、文化と遺産に関する団体、自然保護団体及び市が中央ウォーターフロント公園に関する会話を開始した。200人以上の個人がハーバーフロント公園の協議に参加し、彼らの洞察力を通じた意見や発想を聞き取ることで大いに効果があった。多くの人々にとって、ハーバーフロント公園とオープンスペース体系の完成は、長い間待たされた夢の実現である。

このレポートは、ハーバーフロント公園管理委員会によって書かれる公園の残りの部分の最終的な設計を規定する仕様の基礎となる。そしてこれは既存の公園の改良にも適用されることとなる。この管理委員会は、ハーバーフロント公園

の最終的な設計整備に関する提言を経済開発と公園委員会に提出し、その後市議会に承認と実施を求めることになる。

2. はじめに

公園とウォーターフロントは両方ともトロント市と住民にとって優先順位の高い課題である。ハーバーフロント公園とオープンスペース体系の整備に関する協議と言う仕事は、これら両方の重要課題を一つに結合するものである。

トロントのハーバーフロントはウォーターフロントの中央部を占める陸地と水面からなる100エーカーの空間である。ハーバーフロント地区は、北を湖岸大通り、西をスタジアム通り、そして東をヨークどおりで区切られている。南は、クインズ埠頭から湖に突き出ている棧橋の端まで伸びている。この中に合計40エーカーとなるいくつかの分区が存在する。この土地は1991年に公園用地の指定を受けた。公園用地の指定を受けた土地の中には、水辺のプロムナード用地として水辺のスタジアム通りからヨーク通りまでの幅7メートルの用地を含む。

最近この地区にいくつかの公園用地の発案があり、いくつかのハーバーフロント公園が完成している。音楽公園とスパニア埠頭干潟はその代表例である。前者はヨハン セバスチャン バッハの曲に因んだ都市公園として、後者は港湾の北部沿岸におけ90年来初めての干潟としての自然公園である。しかしながら、その他の公園にすることになっている区画は使われないうまま、一部駐車場などの一時的な仕様がなされているに過ぎない。これらの土地を公園にするための資金のめどが最近立ち、市としてこれを公園に整備しハーバーフロント公園とオープンスペース体系を完成させる好機を得た。

ハーバーフロント公園とオープンスペース体系の計画は、トロント市の経済開発、文化、観光局によって進められる。ハーバーフロント公園の将来計画は、地域住民の考え方によって方向付けられる。

ハーバーフロント公園用地の考え方を共有す

るために、住民及び関係者との総合的な協議がなされた。協議は次の疑問に回答を見つけ出すように設定された。

ハーバーフロント公園はどのようにあるべきか
どのような活動がなされるべきか。

公園に関しなされる決定はどのような基本方針に基づくべきか。

公園に関連する主たる課題は何か。

この報告書は、ハーバーフロント公園に関する議論を進め、地域の考え方を纏めるためになされた公の協議について報告する。報告書は、その協議がどのようになされ、どのような結果であったかの概略を述べる。形成された共通の考え方、設計の基本方針、及び公園の全体的なテーマについての提案が含まれる。



3. 計画内容

ハーバーフロント地区全体は19世紀終わりから20世紀のはじめにかけて湖を埋め立て造られたものである。当初は海運と工業の用地であった。1970年代に州政府によりハーバーフロントと言われるようになって用途の転換が始まった。そのときから地区は大きく変わった。工場が建ち、倉庫や荷役施設が存在する中に住居、レクリエーション施設、観光や文化的な施設が混在していった。ハーバーフロント公園とオープンスペース体系が出来上がると、水辺への通路が作られ、新しい公園とオープンスペースが作られ、この地区に大きな変化をもたらすだろう。

100エーカーのハーバーフロントのうちの40が公園用地に指定されたのは1991年である。このとき、市議会は公式に決まっていた用途と計画の変更を承認した。この公園用地の指定には水辺のプロムナードとバサースト埠頭のハーバーフロント校とコミュニティセンター用地も含まれていた。この年の暮れ、市議会はオープンスペース、景観通路、建物の大きさ及び通りの景観の指針を示すハーバーフロント設計指針を採択した。1992年に市は、ハーバーフロント公社と地区内の基盤と公園改良の実施契約を結んだ。ハーバーフロントの区画の売却と開発により、公園用地開発とハーバーフロント公園及びオープンスペース体系完成に必要な資金の確保にめどが立った。

2001年に市は中央ウォーターフロント計画第2部である“メイキングウエーブス”を発表した。その中に4項目の基本方針が示されている。

障害物を取り除いてつなぐ

豪華なウォーターフロント公園とオープンスペースのネットワークを構築する

清潔で緑に満ちた自然環境を作り出す

活動的で多様な社会を創造する

これらの基本方針のうちの最初の3項目は、ハーバーフロント公園に適用できる。基本方針は、中央ウォーターフロントを観光客、住民そしてそこで働く人たちの地区とするときに市民の領域の重要性を認識している。中央ウォーターフロント計画は、中央ウォーターフロントを特別の地区であるとの考えを強調している。それは、すばらしい景観のウォーターフロント公園と広場、人の目を楽しませてくれる自然の佇まい、市の各所への接続そして健康の増進を含んでいる。ハーバーフロント公園体系の開発を通じて重要な課題は、トロント市中央空港であろう。トロント市中央空港の閉鎖または拡張は公園体系に影響を与える。しかし、本プロジェクトを規定方針通り進めることが大切である。ハーバーフロント公園とオープンスペースの体系の完成は、トロントのウォーターフロントの活性化の鍵を握る一步となる。

公園の位置は

ハーバーフロント公園区画は地区全体に散らばっている(図-1参照)。西から東に主要な区画は次の通り

バサースト埠頭

スパディナ埠頭

メープルリーフ埠頭

ジョン埠頭

ヨーク埠頭

先に述べたとおりこれらの区画はいろんな状況にある。ヨーク埠頭の大部分は、ハーバーフロントセンターのオープンスペースの一部として開発されている。BQ5、MLQ6及びMLQ2のような場所は、駐車場として使われている。BQ12地点にはカナダモルティングのサイロがあり、SQ1とSQ4は音楽公園とスパディナ干潟として完成している。

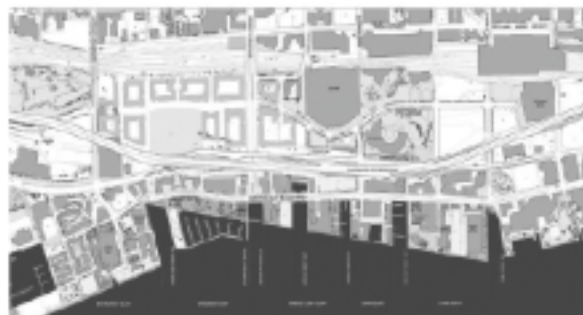


図-1 公園地区を示すハーバーフロントの地図

接続

ハーバーフロント公園から西に行くと、ハーバーフロントからコロネーション公園、歴史的なフォートヨーク、ギャリソンクリーク溪谷、展示場、オンタリオプレイス、そして荷の砂浜へつながるオープンスペース接続がある。

東側には既存のハーバースケアー公園を通じて東のベイフロントの将来の公園用地、ポートルランド、クラークビーチそしてドン河溪谷の北に沿っていく接続がある。

ハーバーフロントとそのオープンスペースを下町、ラウンドハウス公園、鉄道用地の開発として計画している将来の公園用地に繋がるなど多くの南北接続がある。これらは、ヨーク通り、

リース通り、ジョン通り、スパディナ大通り及び
バサースト通りを含んでいる。

ハーバーフロント公園とオープンスペース及びその市内への繋ぎは、2001年に発表された市のウォーターフロント文化遺産基盤計画によって豊かなものなるだろう。計画では、ウォーターフロントからギャリクソンクリーク、ジョン通り、フロント通りとヨング通りの回廊を通して北へ繋がるいくつかの文化遺産を認定し、評価している。

ハーバーフロント公園の完成は、ウォーターフロント活性化への道の第一歩を代表するものである。それは、トロント市としての総合公園体系形成、優れた景観形成、都市設計、コミュニティ開発、環境に対する関心、技術文化芸術への参加意思の表明である。



4. 協議手法

ハーバーフロント公園とオープンスペース体系のビジョンを形成するための協議過程は、三つの重要な要素からなっている。:利害関係者対応、地元コミュニティとの協議及びハーバーフロント公園顧問団の設置である。

利害関係者対応

利害関係者対応は2002年の4月に行われた。21の組織の代表者と主要な議題についての彼らの考え方を知らせると同時に今後の協議をどのように進めるべきかの助言を得るために聞き取りをした。聞き取りの対象は、ウォーターフロントに関連のあるコミュニティからビジネス、サービス、文化団体まで幅広い組織を対象とした。主たる結果は以下の通りである。

ほとんどすべてのインタビュー相手は、ハーバーパークバーフロント公園とオープンスペース体系の完成は、市にとって意味深いチャンスであると信じている。その便益は、緑のスペースの確保、水面へのアクセスの確保、そして地域への人々の吸引である。

人々はハーバーパークバーフロント公園が、活動的で刺激的で人々にまた来たくなるものでなくてはならないと思っている。

陸上では、人々が歩き、眺め、静かに座り食することが出来る場所であるべきである。

水面では、人々が手漕ぎボートをこぎ、カヤックやカヌーに乗りまたヨットに乗ったり係留したり出来なくてはならない。

人々は、散歩したり走ったり、インラインスケートを楽しんだり自転車に乗ったり出来なくてはならない。

自然の残る場所やきれいな景色は高い優先順位をつける。

駐車場は多くの人々が主要な項目だと考えている。

インタビューで人々はどういうことを言っているか

「人々はウォーターフロントへ水に接し、水に関係のあることをするためにやってくる。ハーバーフロント公園で何をしようとするのは水に関連のあるものであるべきである」

「成功しているウォーターフロントは、大衆に近いものである。それらは、いろんな使い方が出来、よそからの訪問者にも地元の人にも同様にレジャーやレクリエーションの機会を提供するものである必要がある。」

「私は個人的に、あなた方が心の癒しとなる緑の空間を十分に手に入れているとは思わない」

「市には水面のダイナミックな何かが必要だ。われわれはこのプロジェクトが神秘的で人々をこの地区に惹きつける何かダイナミックな物を作り出すことを期待する。」

「われわれは、住人と訪問者の必要としていることに溶け込む形で、水質を改善し、近づきやすくしそして自然生態系を改善する最後のものをわれわれの社会に作り出していくことに

関心を持っている。」

「私は、港湾の促進された機能や景観と融合した新しいタイプの公園を見たいと思う」

「われわれは、活動的な空間と静かに瞑想にふける空間の入り混じったものが好きだ」

「人々は、立ち止まるところ、水面を眺めるところ、そして活動的な都市を振り返る場所が必要である」

「水に近づきやすくすることが必要である。現在のままの岸壁は高すぎて小船での利用が出来ない」

「人々は、ミュージックガーデンは大変魅力的なのでここに着岸したいと思っている。しかし、その前面に人々が大きな船でなくともくつろげるところが必要である。

「水際の歩道が出来るとすばらしいだろう」

「この地区の特色の一つは、各公園間の間に位置することである。このことは各地区が新しい発見のある場所だと言う資産に変えることが出来る」

地区社会との協議

利害関係者に一当たりした後、調査チームと公園局の職員は幅広い地区社会のグループと彼らの新しい公園に対する考え方その他を理解するために会合を持った。全部で16グループである。この協議の段階は2002年の4月から5月にかけて行われた。それは約束事を述べる場や地区会議、レクリエーションその他の関心のある業界団体との特別会議も含まれている。加えて調査チームは、2回の公聴会を開いた。1回目は、人々に調査の概要を説明し、公園整備の背景を説明した。この公聴会の最後に整備予定地に案内した。ここには、市民、利害関係者、市議会議員も含まれている。2回目の公聴会は、構想、5つの主要テーマ及びハーバーフロントパーク顧問団により提案された設計理念の説明を中心とした。

ハーバーフロントパーク顧問団

ハーバーフロントパーク顧問団(HPAG)は、市民協議戦略の主要な三番面の要素である。

HPAGは、ハーバーフロントパークとオープンスペース体系に関する広く共有できる考え方を構築するように設けられたものである。このグループは次の分野の代表で構成されている。

近隣団体と住民;

レクリエーション利用者;

芸術及び文化団体;

保全及び自然の環境グループ

観光及び地場企業

全体で2002年の5月から9月までに5回の会合を持った。この中でグループは、公園設計分野、文化及び遺産、及び自然環境の専門家から地方レベル及び国際的なレベルでの傾向や設計事例などの情報とアドバイスについて報告してもらった。

グループは、またトロント港歴史的な内容について情報を得ている。グループは、対象地が造船業の中心であったことや海運業その他の産業についての歴史やもっと最近の1970年代のハーバーフロント社会の形成について、市の担当者から説明を受けた。計画内容に関する情報からグループは、中部ウォーターフロント第2部計画、市のウォーターフロント文化と遺産に関する基盤計画その他の計画書や計画過程からそれらとの関連性やシナジー効果などの可能性を見ることが出来た。

HGPAは、ハーバーフロントパークとオープンスペース体系に関する広く共有できる構想書を書き上げた。彼らはまた、実施を誘導する設計理念を設定し、ウォーターフロント沿いの個人資産に対する大構想としてのアイディアと課題について提案した。これらは、この報告書の次の章で示す。

5. ハーバーフロントパークとオープンスペース体系の理想像

ハーバーフロントパークとオープンスペースの理想像はHPAGによって次の5項目の重要なテーマが定められた。その内容を以下に説明する。公園体系は次のようではなくてはならない。

優れた設計でなくてはならない

文化と伝統を重視したものでなくてはならない
 自然環境を大切に、保全するものでなくてはならない
 近隣の住民の生活の質を高めるものでなくてはならない
 人々と水を結びつけるものでなくてはならない

ハーバーフロントパークは優れた設計でなくてはならない

相談をした多くの方は、公園設計として優れたものである必要があると強く感じており、この記述はHPGAの基礎を成す思想となった。優れた設計の要素としては次のような項目が含まれる。

親が安全性について心配することなく、ただ座って眺めていることが出来る子供が入って遊べる水辺の施設

人々が立ち止まって景色を眺め深呼吸をすることが出来るベンチや静かな日陰や階段などの休憩所

活発で活動的な肉体的健康に役立つ場所と精神の健康に効果的な静かで瞑想にふけることの出来る場所が組み合わさった複合的な構成
 ハーバーフロントセンターのような地区固有の文化的活動を反映し支持すること。
 ハーバーフロントセンターの活動はトロントの芸術及び文化的な感覚の重要な要素である。この公園体系は、例えばハーバーフロントセンターのプログラム作成や補助的な公園などでハーバーフロントセンターに有意義な支援を送る可能性を持っている。

人々がハーバーフロント公園を通り抜け易くなっていること。公聴会の席上多くの参加者がその地区は通り抜けるのに苦労するくらい混雑していると考えている。このことは、クイーンズ岸壁通に沿って交通の形態別に(車、バス、自転車、インラインスケート及び歩行者)分離視して広めの側道を設けることと、水際に沿って連続したボードウォークを設ける提案になる。

これらの発想は、参加者の感覚が優れた公園設計に反映される建設的で創造的な形である。

その他の提案としては、水上を他のいろいろな地点に運ぶ手段である水域を越える方法(水上タクシー)から、岸壁をまたぐ歩道橋までである。これはトロントのサイクリングマスタープラン実現のためにも必要である。

ハーバーフロント公園は文化的な目標でなくてはならない

多くの方は、ハーバーフロント地区の固有の特性に言及し、この地区における公園の整備はこの特殊性を反映したものでなくてはならないと強調する。年間3百万人がライブ音楽、ダンス、美術、演劇、手芸その他のイベントでハーバーフロントを訪れることを繰り返し指摘する。ハーバーフロント公園とオープンスペース体系は次のようであってはならない。

現存するまたは今後行われる文化的なイベント、活動及び組織を支えるもの。

地元の観光業、レクリエーション組織及びその他の零細な事業を支えるもの。例えば零細なものとしては、骨董店、ヨット、カヌー遊びとその施設、大型帆船プログラムそして夏の子供のキャンプなどである。

公園を年間を通じて活用できるように努力する。多くの人々は、暖かい水辺のカフェ、冬のワインガーデンや冬のスポーツに活用できるチャンスはあると見ている。

ハーバーフロント公園は自然環境を保全し活性化するも出なくてはならない

港の近くは人をひきつける要素(水辺に近づくことは普遍的な楽しみである)と障害の要素がある。なぜならこの水域は五大湖の一つで水質が悪く貧弱な生態系の地区とされている。HPAGと多くの人たちは、ハーバーフロント公園の完成はトロントとその市民が自然環境を改善し自然環境について学ぶ機会を与えることになると感じている。

ハーバーフロント地区は、すでにスパディナ岸壁干潟の重要な部分になっている。かつては埃っぽい駐車場でしかなかったところが、鳥や

蝶蝶その他の無脊椎動物や魚類が生息する変化にとんだ豊かな環境の場所になっている。トロント及び地域保全局からの生態保存の専門家、公園レクリエーション局の環境と園芸部からの在来種の専門家そしてトロント湾機構からのボランティアベースの世話役を含む保全専門家が住み着いている。

われわれの公聴会でHPAGの多くの参加者から、公園設計の観点から次のような自然環境の保全と改良を求めている。

陸上と水中の植物を植えることにより水質を改善すること。トロントのウォーターフロントの汚濁の主たる原因の一つである雨水のこのような保持と処理。

新しくかつ特別な生態系。スパディナ岸壁干潟は例外として、ハーバーフロント地区では高度な生態系は失われている。港の北側の海岸は水辺の生態系を作り出せる可能性を持っている。そしてピーター通りの部分は、唯一雨水や下水が流れ込んでいない地区なので、それを実施するに最も適した地区であることが確認されている。陸上植物の密生は、やってくる鳥や蝶を含む野生生物の貴重な生息地(食料と隠れ家)となる。

樹木による被覆を増やすこと。中央ウォーターフロント地区の樹木被覆率は市全体の30%と比較しわずかに3%に過ぎない。日陰になる樹木を植えることは、景観を良くし、住人と訪問者に夏の暑い日の日陰を提供し、風を防ぎ部分的な気候を改善し酸素を供給して炭酸ガスを減らし、多くの生物に生息場所を提供する。

自然の学習と実践的勉強の機会を与える。ハーバーフロント公園はトロントに市民に自然について学ぶ機会を提供するとともに公園の世話役として活動する場を作る。

スパディナ岸壁水域

スパディナ岸壁水域の整備は、市の公園局とトロントと周辺地区保全局(TRCA)の共同作業として進められているが、これは釣り人のスパ

ディナ通り先のマリーナの近くで3フィートのカワカマスを上り上げたと言う報告が引き金となった。引き続いて行われたTRCAの調査で、劣悪な水質、鉛直な護岸、少ない藻類により制限を受けた貧弱な生態系にもかかわらず、その地区に多くのカワカマスが生息することが確認された。プロジェクトの一つの目的は、港の北の浜辺にカワカマスの産卵場所を創出することにある。

1998年に市は駐車場用地を埋め立て、0.86エーカーの水域を土地にした。その土地は、いろんな深さからなっている。水深の深いところから水上の土地までである。護岸は二箇所水が流れ込むようにあけてある。そして百種類の植物が植えられた。

それらの中には、陸上の種、やわらかい草、水際のイグサ、最近の主として水中に植生するオモガタが含まれる。これが完成した結果、湿地帯は9種類以上の底性無脊椎動物、5種類の魚類の住処となり、スッポン、ビーバー、マスクラット、蝶々や小鳥が多く見られるようになった。人々にとっても自然を眺めたり、座って考え事したりまたは通り抜けるのに楽しい場所となった。2002年にスパディナ岸壁湿地世話役計画がスタートした。これは2年計画で、公園局、TRCA及びトロント湾機構が参加している。この計画では湿地への植物の植え付け維持にボランティアを活用している。これは世話役活動の中で政府と地域住民の協同の良い事例となっている。

ハーバーフロント公園は近隣の人々の生活の質を高めるものでなくてはならない

ハーバーフロントの住民と事業主はハーバーフロント公園とオープンスペース体系の理想像の構築に積極的に参加した。

100人以上の住民が関係者協議、個人意見聴取、住民懇談会または公聴会を通じて意見を述べている。ハーバーフロント公園が近隣住民の生活の質を高める可能性の理解、継続することへの熱意そしてうまくいくようにしようとする意欲がある。近隣の生活の質は次のようなことを通じて改善される。

家族にとってレクリエーションの機会が増える

木を植えることにより、また優れた公園設計により美観が向上する

駐車場用地の埋め立てとアイドリングするバスをハーバーフロント公園の外に出すことにより交通量とアイドリングが減少する

完成した段階で住民、地区組織、文化や業界団体が公園を維持するために協働して当たる機会が増える。

ハーバーフロント公園は人々を水に結びつけるものでなくてはならない。

ハーバーフロント公園は住人、労働者及び来訪者をトロント湾の水につなげるものでなくてはならないという強い感覚がある。人々は水辺を散策したり、港の周りを船で遊覧したり、腰掛けてヨットの航行を眺めたりまたは大型の帆船乗ることが出来るようなことを望む。あるものは、小型ボートを係留したりカヌーを浮かべて湾に漕ぎ出すために公共の船着場を利用したいと思う。

ウォーターフロントのビジョンに関するテーマは、地域住民の関心が高くなってきていることとウォーターフロントの活性化に対する市民参加の意識が高くなってきていることを反映している。協議への参加におけるハーバーフロント公園を通して人々のトロントのウォーターフロントとのつながりは、次のようなことである

区域内の岸壁の物理的な改良

小さなプレジャーボートの持ち主が近づきやすく、かつ公園からの視界を妨げないよう大型船の係船の仕方を変えること

トロントの2本マスト帆船の訓練、クイーズ岸壁ヨット、ハーバーフロントカヌーやカヤックセンターなどの地域の若者の活動を支援すること

会員が湾に出る方法を確保できるよう地区のカヌークラブや関連ビジネスの協力関係を発展させる

釣りのための場所の準備を含め水辺の公園らしい特色を出す

もっと積極的に水に係るレクリエーション及び観光を発展させる。

トロント音楽園

特色のあるトロント音楽園がスパディナ岸壁の西端に2エーカーの広さで存在する。ここは以前造船所、倉庫、工場などの工業地帯だった。1999年に完成してからは、変化にとんだ遊歩道があり、植物が茂り、彫刻があり、週末にはクラシック音楽のコンサートが開かれて音楽と公園を愛する人々のお気に入りの場所となっている。

この音楽園はヨハンセバスチャンバッハの無伴奏チェロのための第一組曲によって一躍有名になった。有名なチェロリストヨーヨーマが景観設計者のジュリーモアイヤメッサーベイと一緒にバッハの音楽を自然の中に訳し込んだ。庭園は、組曲の中の6つの動きにあわせた6つの部分に分割されている

前奏曲、曲線と曲がりにより起伏する；

アルマンド、散歩道の続く木立；

クーラント、野生の草花の中をぐるぐる回る小道

サラバンド、円形の針葉樹の林

メヌエット、形の整った花壇

ジグ、外の世界に繋がる大きな草に覆われた段状の土地。

官民の協働が音楽園を作る時のキーであった。この庭園を造るポストンでの最初の計画が挫折したとき、トロントの公園及びレクリエーション局はこれを受け入れた。土地に住人であるジムフレックは市の資金を補足するための個人的な資金集めの組織を立ち上げた。

この行動が、音楽園をトロントに実現する魔術となった。

6. 設計方針

HPAGによりハーバーフロント公園の設計と実施段階の方向を示すため6か条の設計方針が定められた。新しいハーバーフロント公園は次ぎ様であるべきである。

住人と来訪者が共に利用できる空間であること。
すべての人の空間であること(すなわち、すべての人が出かけることが出来、いろんな利用者に対応できること)

物理的な接続が出来ていて港の北の海岸及び市内の他の部分と連続していること
現在の利用方法、特に観光、ハーバーフロントセンター、及び遊覧船事業などは継続しかつより助長するものであること
市の他の部分とのつながり
住民、利用者・団体、組織間の協力関係を築き地域の豊かな伝統文化を強調するもの。

住人と来訪者が共に利用できる空間であることについて

人気のあるハーバーフロント地区には、約4,700人が住んでおり、急激に増加している。この地区はまた、トロントの中で最大の観光名所のひとつになっていて、年間3百万人入り込み客がある。この公園の設計に当たっては、両方の利用者の求めるものをバランス良く提供する認識が必要である。

すべての人の空間であることについて

ハーバーフロント公園は、すべての年代層、すべての身体能力の者にとって尋ねることが出来、受け入れられる様設計されたものでなくてはならない。これは、非常に若い層の楽しい遊び場を提供する一方で老人がベンチに腰掛けて楽しむことを含む。公衆トイレ、レストラン及びカフェは必要な利便施設である。

HPAGは、公園設計において限られた活動の利用を主体にすることは原則としてしないが、クイズ埠頭の北側のメイプルリーフ埠頭の特別な部分については、サッカーやスケートボードなど活動的なレクリエーションのための空間として確保することを認めている。

物理的な接続が出来ていて連続していることについて 公園の位置と形状

水際にある多くの公園区画が船揚場と非公園利用等のため距離によってひきはなされている中であって、この公園の位置と形状は設計の興味をそそる。公園の設計においては、公園体系を通じた強い接続性と連続性を確立すべきである。

それは、船揚場を跨ぐ歩道橋など、そのほか可能な水際線を使うとか水の部分を通路に使うなど接続路を建設することで実現できる。植物を植えるとかいろんな区画にグリーンの島を作ることによって自然の生物の連続性を改善できる。

現在の利用は継続しかつより助長するものであることについて

ハーバーフロント公園及びオープンスペースシステムの設計に当たっては、既存の文化、レクリエーション及び観光利用を評価し、受け入れかつ助長するものであるべきである。これは、ハーバーフロントセンター、芸術分野において世界的に名前の通った企画をする非営利団体、特別の10エーカー地区にある教育とレクリエーションの非営利団体を含む。

設計方針は、ハーバーフロント地区で繁栄しているビジネスと同様に非常時の機能を提供する組織が重要であるとしている。この中には遊覧船の業界が含まれる。彼らは公園を船客の重要な下船場所と考え、いろんな新たらしい事業のシーズがあると考えている。

市内の他の部分との関連について

公園の設計では、公園の利用者のため四方との連絡に配慮しなければならない。これには、フォートヨーク、展示場及びガリソンクリークに向かう西側、イーストベイフロント、ポートランド、及びドン川に向かう東側、下町及び鉄道用地に向かう北側、及びトロント島に向かう南側を含む。これらの接続は物理的なものではあるが、文化的なイベントの連携でもありうる。公園系を市の文化的な回廊と結びつけるとか、文化遺産の標識でつなぐとか、そしてハーバーフロント公園の整備を全体的なウォーターフロント整備と関連付けるなどである。

協力関係を築くことについては

ハーバーフロント公園の整備は、現在進んでいる協力関係の精神の延長に乗せて進める。HPAGメンバーは地域の環境保全組織、地域住民

の協同プロジェクト組織、地元実業界そして現在支援が進んでいるハーバーフロントセンター、ハーバーフロント地域センター及びウォーターフロント公立学校の活動との協力を念頭に置いている。



7. 地区別テーマと詳細

地区別テーマ

多くの可能性がる地区別テーマが公園システム全体としての個性を導き出すような形で提案された。これらの提案は、発想を生み出す過程としての始まりである。これらは、文化庭園、公共芸術、設計の継続性及びウォーターフロントの歴史的痕跡を含んでいる。公共の意見と景観設計専門の建築家の援助を得て、HPAGは個別の公園に対して“絵”を描いた。

バサースト埠頭地区は、地区住民の利用を優先する。そのような設計とし利用内容もそのような内容とする。カナダモルティングサイロ地区(BQ12)の将来開発は、その他の残された空地、特に小ノルウェイ公園に隣接するBQ5等と共に多くの将来の活用の可能性を示す。直線の空地をすばらしい景観を利用するためにウエスタンギャップ沿いにつなげることを推奨する。

主たる新しい呼び物は、西活動地区で開催される。新しいレストラン、手芸及びマリンセンター、観光船や帆船の係留等が提案されて

いる。ギャリソンコモン及びフォートヨークに近いので、この地区は歴史に焦点を当てるべきである。

中央地区では、環境とその保全の目標を、公園設計の中心に置くべきである。活用に当たっては魚類の生息環境を改善し、水際の環境評価を行い、クイーズ埠頭の北側を活動的なレクリエーション地区とする。

ハーバーフロントセンター地区は、文化と航海をテーマとした呼び物を中心とすべきである。主たる観光客対象の呼び物として、この地区はハーバーフロントセンターでの行動的な活動が中心になる。水辺への接続は、広いボードウォークと改良された棧橋への通路により改善すべきである。

8. 次の段階

市による7ヶ月に亘る市民との協議によって、ハーバーフロント公園とオープンスペース体系に関する考え方を共有することが出来た。同様に中央ウォーターフロント公園についても、住民、利害関係者、地元の事業者、トロントの設計業界、文化歴史団体、環境に関心を持つ人々及び市の間で会話が始まった。ハーバーフロント公園については、200人を超える個人が市民協議に参加し、そのことは市民の見識、考え方及び意見を聞きだすことにより大いに意義があった。多くのこれらの人々にとって、手続きの頂点はハーバーフロント公園とオープンスペース体系の完成時に、長らく待たされた約束を満たされることである。

このレポートは、ハーバーフロント公園管理委員会が、既存公園の改良要請とあわせて残りの公園用地の設計を最終的に誘導するために作る仕様書のもとになる。管理委員会は、ハーバーフロント公園の設計・整備に関する提言を経済開発及び公園委員会に送り、次に承認と実施のために市議会に送られる。

http://www.toronto.ca/harbourfront/harbourfront_consul_report.pdf

<http://www.toronto.ca/waterfront/>